

2018年3月期第1四半期 決算電話会議 質疑応答要旨

日時：2017年8月1日（火） 11：00～11：40

お断り：この要旨は、決算電話会議にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、電話会議でお話ししたことの一字一句を書き起こしたものではありません。当社の判断で簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

Q. フレモント社の第1四半期の連結売上高への貢献額を教えてください。

A. 約8億円。

Q. フレモント社の8億円は、連結前の実績と比較して伸びているのか。また、予定と比較してどうか。

A. 前年同期比は、ほぼ横ばいと捉えている。若干期初の計画を下回っているが、下期に伸びてくる見通しなので、それほど心配していない。

Q. クリタ・ヨーロッパ社（KEG）の第1四半期の売上高の伸びはどうだったか。

A. KEGのEMEAにおける伸びは、現地通貨ベースで2.7%であり、ほぼ計画どおりだった。

Q. 水処理薬品事業において、第1四半期にどの辺りの費用が増えたのか。第2四半期以降への影響はどうか。

A. 第1四半期における販管費の増加要因は、IT関連費用の増加や寄付金といった一時的なものなので、第2四半期以降には影響しないと考えます。

Q. 水処理薬品の国内顧客の稼働が良かったとのことだが、どのような業種が良くて、どのような顧客から受注を取れているのか。

A. 国内水処理薬品は、どの業種向けも押し並べて伸びているが、鉄鋼向けは高い伸びとなっている。

Q. 水処理薬品の海外は減益とのことだが、国内は増益という理解で合っているか。

A. 販管費の発生状況からして、国内も第1四半期には収益性が低下したと見ている。

Q. 電子産業向けの装置は、第1四半期において国内外で受注が好調だったが、顧客の種別を教えてください。また、継続性をどう考えるか。

A. 半導体やスマホ向け部品の分野が活況だったと捉えている。第1四半期においては大型案件の受注の影響があったので、第2四半期以降にも継続するとは考えていない。

Q. 電子産業向け装置の大口案件の受注は、もともと計画には入っていたものか。

A. 国内は予定外のもの、海外は計画どおりの進捗と見ている。

Q. 電子産業向け装置の大口受注案件の地域はどこか。

A. 韓国と国内の西の方。

- Q. 水処理薬品がアジアで減収とのことだが、地域はどこか。
- A. 中国やシンガポールでの失注の影響もあり、アジア全体では16%減収となっている。
- Q. 水処理薬品の営業利益率が第1四半期で7.3%、上期の計画で9.2%だが、第2四半期以降に戻っていくと考えていいか。
- A. 第2四半期以降で大きな不安はないが、営業利益は上期計画に対して若干下回る可能性もある。
- Q. 電子産業向け装置の利益は計画に対して過達ペースだと思うが、要因はハードなのかメンテナンスなのか。
- A. 全体的に想定より良かった。
- Q. 一般産業向け装置の受注高と売上高の増加要因として、土壌浄化、メンテナンス、電力といったコメントがあったが、それぞれの金額を教えてください。
- A. 受注高では、土壌浄化が25億円増、メンテナンスが13億円増、電力向けで6億円増。売上高については、土壌浄化が6億円増、メンテナンスが2億円増。
- Q. 土壌浄化の受注増加は一つの案件によるのか、それとも複数か。
- A. 新規顧客で1件、既存顧客で1件、大きな案件があった。市場としては横ばいと見ており、提案営業の結果と捉えている。
- Q. 第1四半期における電子産業向け装置の好調な受注が、超純水供給事業の設備投資見通しに波及することは考えられるか。
- A. 大型案件の受注はEPCであり、超純水供給事業の投資を押し上げる要因にはならない。同事業の設備投資計画の見通しも、今のところ変化はない。
- Q. 水処理装置事業の第1四半期の利益の進捗が計画どおりだとすると、同事業の第2四半期の利益率が大きく低下することになるが、当初からの想定どおりか。
- A. 第1四半期の同事業の利益の進捗は、計画線とは言え、順調と見ている。
- Q. 水処理薬品事業の方は、上半期の利益計画のハードルは少し高いか。
- A. 若干の不安はある。
- Q. 両事業を足し合わせると、対計画で利益の進捗をどう評価するか。
- A. 順調である。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。